

檀信徒各位

せがき
大施餓鬼法要のご案内

聖 名 酷暑三伏の候と相成りました。

皆々様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

お盆の季節を迎えるに当たり、勤められてまいりました大施餓鬼法要を、今年も浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに、下記のとおりつとめます。ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいますようご案内申し上げます。 合 掌

平成 25 年 7 月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拝

※期 日 7 月 15 日 (日) 午後 1 時よりご^{えこう}回向
午後 2 時より法 話

※布教師 藤野 良海 師 (神崎市 浄圓寺御住職)

※ご回向料

特別^{とうばえこう}塔婆回向 1 霊 10,000 円 以上

今年初盆を迎えられるご先祖様

特に志される霊位

(塔婆を持ち帰ってお盆までお祀り下さい)

普通回向 1 霊 1,000 円 以上 志納下さい。

※お供え米、お供え米料 随意志納下さい。

ご本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

特別塔婆回向を申し込まれる方は、準備の都合がありますので、事前にお申し込みいただきますようお願いいたします。

お申し込みは郵送、ファックスでも結構です。FAX 番号 0942-32-2701

同封の申込用紙に記入のうえ、7月10日までにお願ひします。

しょうろうだな お盆の精霊棚



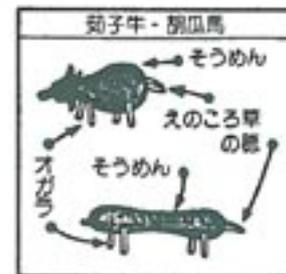
精霊棚はお盆の間、ご先祖様がおられるところです。毎日、家族の食事の前には供養をし、それから、食事を始めるようにしましょう。

地方によっては、この間の献立が厳格に決められているところもあります。

普通はそこまでしなくても、家族の食事の一部を供えたり、故人の好物を供えるということになるでしょう。



略式棚



ミソハギとは

ミソハギは高さ1m近くに成長する多年生草本。本州以南の沼地や田圃の周辺など、湿った明るい場所に生育する。全株無毛、茎は上部に至るほど四角形の断面となり、不明瞭な稜がある。葉は対生し、花弁は6枚。6月から8月のおわりにかけ、紅紫色の花を次々と付け、花期は長い。花弁はしわがよっている。よく似たエゾミソハギは毛があるので区別できる。



※精霊棚が普段の仏壇と違うのは、水の子（茄子とキュウリを細かく刻んで洗米と混ぜたものを蓮か里芋の葉に乗せる）と調伽水（どんぶりに入れた供養の水）、それに茄子の牛とキュウリの馬を用意することくらいでしょうか。

※お参りの仕方

お参りする人は、ミソハギの束の先をどんぶりの調伽水に浸け、水の子にふりかけてから（洒水）、拝むようにします。

ミソハギは他のもので代用できます。お盆に祭られる精霊棚（しょうりょうだな）は別名、盆棚、魂棚、先祖棚ともいい、お盆の間、ご先祖様が宿るところといわれています。

期間中の供養はここでを行います。仏壇とは別にするのが一般的なやり方です。

精霊棚は普通、10日から13日の朝までには作ります。

※新盆の家では、1日ごろから作ることもあります。

以上ごく一般的と思われることを説明しました。

法然上人絵伝

第三巻第六段

法然上人、十八歳の秋に西塔の叡空の室へ遁世す



久安六（一一五〇）年、十八歳の法然上人は皇円阿闍梨のもとを去り、西塔黒谷の慈眼坊叡空上人のもとを訪ねた。

皇円阿闍梨は、法然上人がもつと学問を続け、天台宗の大学匠になることを期待していたが、上人は父漆間時國の遺言を固く守り、遁世を決意した。叡空上人のもとに身を寄せた法然上人は、師匠の源光阿闍梨の「源」の字と、叡空上人の「空」の字をもらい、源空と名付けられた。

黒谷は良源上人がこの深い谷に寺を開いたとき、大黒天が出現したという伝承から黒谷といわれている。比叡山にある五ヶ所の別所の一つで、古くから立身出世を考えず、専ら念仏修行に精進していた僧侶たちが住む場所であった。

黒谷で生活中の法然上人は「一切経」を数回読んだという。「一切経」というのは「大蔵経」のことで、五千余巻にのぼるもので、一回読むのも大変で

ある。これを繰り返し読み返したという。その他、他宗の書物にも目を通したというから驚くほかない。

法然上人はよく師匠の叡空上人と法問を行なった。そして、叡空上人を驚かせることも多かったという。

あるとき円頓戒について論争をした。二人の意見は合わず、長時間に及んだ。頑として自説をまげない法然上人に立腹した叡空上人は、かたわらの木枕で法然上人を打ち据えた。法然上人は叡空上人の前を立って自室に引き上げた。

しばらく時を過ごした叡空上人は、自分の間違っていたことをさとり、法然上人の部屋を訪ねて深くあやまつた。そして法然上人を師と仰ぎ自分は弟子の礼をとった。学問に対する二人の厳しさがよく出ている。

この法然上人の堂々たる態度が、難関を乗り越えて鎌倉新仏教を主張し、庶民救済の教えを広め、特に女人往生を力説した強い面である。

釈尊の生涯

アニルツダ

釈尊の従弟アニルツダは、カピラバストウの悲劇の立役者マハーナーマの弟であった。出家してのち、彼は釈尊の説法を聞きながら居眠りをしたので、叱責を受けた事があった。彼はそれを機縁として生涯釈尊の前では眠らないという誓を立て、五力年の間常座不臥の人となったが、そのため失明してしまった。

ある日、盲目のアニルツダは針に糸を通そうとしたが、通せないで、「だれか自分の為に福德を求めようと思う者は、この針に糸を通して下さい。」とさげんだ。その時「私にさせて下さい」という釈尊の声を聞いて驚いた。彼は「仏はもうすでに福德を積み重ねていられるではありませんか」と辞意を表した。しかし、釈尊は恐縮しているアニルツダの手から針と糸をとりながら、「私ほど真剣に福德を求めているものはいないだろう」といって、糸を通されたのであった。うるわしい子弟愛、さらに福德を積み重ねようとする釈尊の謙虚な態度は、当時の話題として今日まで語り伝えられている。



法然上人ご絵伝に見入る参詣者の方々



久留米門中年番御忌法要
 さる五月十九日厳修されました。

吉水大師行状和讃

～浄土の法門わが朝に、弘通の祖師の其の中に
 選択本願念仏は 円光大師にはじまれり
 仰いで本地をたづぬれば かたじけなくも大勢至
 攝取衆生の智門より あとを此土にたれ玉ふ～



正覚寺ご住職 行正明弘上人による法話



門中住職婦人と心光寺ご詠歌隊による詠唱



ほんとうに生きが為に天地の恵みをいただきます